



第145回例会

1962.4.24 (火) 晴

斎藤求画伯

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)
 事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

次 回 例 会

出して呉れと委嘱ありました。

5月1日 (火)

誕 生 祝

○出席報告

本日の出席数 35名 届出 佐藤(貞)君、池内君、板垣君
 47名 飯白君、佐藤(寅)君、菅原君
 津田君、石井君、岡崎君、黒崎君 10名
 出席率 74.47% 無届 阿部君、五十嵐君 2名

前回の修正出席数 39名
 修正出席率 80.85%
 メンバー 斎藤(得)君 東京北R.C.
 大野君 酒田R.C.
 津田君 天童R.C.
 ツブ 海東君

○司 会 三 浦 会 長

○ソ ン グ 奉仕の理想 リーダー 広瀬君

○ビ ジ タ ー 荒井清君、高野豊一君 } 酒田R.C.
 前田良太君 }

○ゲ ス ト 鮫島芽太君 鹿児島南国新聞編集長
 犬塚又太郎君 致道博物館々長

○連絡事項 三浦会長

○鶴一中に桜苗木50本贈呈しました。

○先般市役所をお願いしておいた松木君への御見舞届
 けられ礼状参りました。御病状大へん経過良好で、
 近々御退院の由です。

○鶴岡市交通安全協会より、当クラブより1名理事を

○幹事報告

○会報到着 仙台R.C、本荘R.C

○新クラブ誕生

大和R.C …… 於 大和市内下鶴間東体工業KK
 毎(月) 12.30 ~

府中R.C …… 於 東京競馬場三階ホール
 毎(水) 12.30 ~

広尾R.C …… 於 北洋相互銀行広尾支店
 毎(木) 12.30 ~

○チャーターナイト御案内

福岡岩手R.C 6月16日(土)
 於 福栄館 登録 11.00 ~ ¥ 2,500

○その他

▲仙台北R.C、東京日本橋R.Cよりそれぞれ新理事、
 役員の見定通知がございました。

▲次会例会 5月1日当クラブの例会場の都合により、
 時間を30分繰り上げ12.00~13.00と変更致します。

▲公式訪問 8月27日(月)と通知ありました。

○卓 話 「西郷南州先生と庄内」犬塚君

(犬塚君の講演は次回に稿をあらためて記載します)

○鮫島君は鹿児島人として感想談があつた。

菅実秀翁と西郷南州は全く兄弟の如くであつた様で
 庄内の土風と鹿児島島の土風に何か相つながられるもの
 があつたと思われる。

庄内には斯くなる下地が出来て居つたと各方面を調
 べると出て来る。明治3年以降100名以上も進学し
 てる。西郷南州は遺訓にもあるよう、何時でも己れ

を犠牲にして死ぬる誠の人であつた。

敬天愛人は南州の達感した人生観であつた庄内によつて遺訓が作られ、松ヶ岡開墾場が全国開拓の手本として残つている。フランスのドゴールも非常な南州研究家で、今や新しい観点から唱導されている

職業奉仕

職業奉仕はロータリアンがその目的を実現する第2の分野であり、ロータリーの主要分野であります。これはわれわれの生活の中で、完全にわれわれの勢力下にある部分、即ちわれわれの職業に関連するものであります。ロータリアンの地位については、国際ロータリー事務総長が最近にドイツの一青年から受け取つた手紙によつても明らかであります。この青年はある町の友人に花を送ろうと思つたのですが、数多い花屋の中でどこが信頼出来るか判らず、事務総長ジョージミーンズ氏に、ロータリアンの経営する花屋の名前をたずねて来たのであります。ロータリーについては彼も自分の町の例から知つていたのであります。そしてロータリアンの花屋を見付ければ、公正な取引をしてもらえると考えたのであります。

(職業奉仕委員会)

型破りのプログラム

クラブの例会プログラムに型破りの想像的なものがあります。例会プログラムは想像の感触で、退屈と常套から救われます。

例 1

交通問題を劇化せんとして、会場の入口に白衣の看護婦をおきました。会員が入つて来たならば、彼等は二つの病院車の間を一列に通らなくてはなりません。主食卓の両端に、交通整理の光が赤、黄、青と例会時中点滅しておりました。

例 2

火災予防と救急法のプログラムを上演して、現実的例証で講演者の話を最高潮にもつて行きました。講演者が話を了えるや否や、消防夫が窓から室に入つて来て、会員の幾人かを、ビルディングの外においてあつた様子に運び出しました。

——奉仕の冒険より——

心 灯

ロータリークラブの人々は、さすがサービスの精神はよくやつているようです。此の人々を大切にリズミカルに快く楽しませてくれた人々が、まぶたに浮んで来ます。

——鶴岡家庭ニユースより——

笑 い

一日は24時間である。いま仮に、寝ている時間を8時間とすると、意識のある時間は16時間である。16時間のうち、勤め人は朝の9時から午後の5時までを勤務時間とすれば、職場にいる時間も8時間となり、残りの8時間が妻子と暮らす時間と往復の通勤時間か、あるいはその他の自分の時間である。つまり大別して、そういった時間区分が毎日の日課となる。

ここで考えねばならぬのである。もし職場に不愉快な事があれば、8時間を不幸に過ごすことになり、結局、意識の働いている16時間の半分は損失となる。これは、つまりらぬ事である。もし、こういった暮らし方の累積で一生を過ごすならば、一生の半分は全く損をしている事になるのであり、不幸な人である。私は同じ職場で働いている人々と時々語るのであるが、つまり、何はともあれ我々が顔をつき合っている間は朗らかに行こうじゃないか。その累積が一生を愉快に過ごすことにもなるのであるからだ。悲しいことも嬉しいことも、心のあり方である。愉快であり、心満ちていることが一番幸福なことなのである。(東京R・C富士製鉄社長 永野重雄)

○よいユーモアは社交界に着てゆく衣裳の最高品である

——サツカレイ——

○毎日の一番大きな損失は、一度も笑わなかつたということである

——シャンフオール——

ロツクフェラーの不老長壽八ヶ条

1. 少量の食餌を規則正しくとること。
2. 適當の運動をすること。
3. 充分の睡眠をとること。
4. 不快の念や心配をさげること。
5. 日光によくあたること。
6. 牛乳をたくさん飲むこと。
7. 健康時でも健康診断をうけること。
8. 生活を規則正しくすること。

——97回誕生日の発表——

○ニコニコ箱

今間君 前回欠席
中台君 全上
渡部君 御繁昌の為早速
庄司君 全上

○本日の献立

お花見料理 だんご おすし おでんかん 酒